

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を！

# ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター  
Fujimino International Cultural Exchange Center

2017年 夏号(季刊) 第144号

## 第19回通常総会が開催されました

6月11日日曜日、第19回通常総会がふじみの国際交流センターにて開催されました。出席者は36名、会員以外の方で参加された方もいらっしゃいました。理事長から挨拶と、現在の日本在住の外国人の現状説明があったほか、各担当者からの平成28年度事業報告、収支決算報告、平成29年度事業計画・収支予算案の発表、質疑応答を経て、提案した議事は全て承認されました。

その後は各国の料理を囲んでの懇親会が行われました。料理は台湾（焼きビーフン、棒棒鶏）、韓国（キムパ※のり巻きごはん、コルベンイムチム※ムール貝のあえもの）、中国（水餃子、焼餃子、小籠包、肉団子、卵と手羽元の煮込み）、パキスタン（カレーとナン）の他、手作りのチーズケーキ、紅茶シフォンケーキ、果物などがテーブルに所狭しと並べられ、おいしい料理を食べながらの会話に花が咲いていました。

今年度もFICECをよろしくお祈いします。



通常総会講演 「外国人支援とFICECの役割」 理事長 石井ナナエ

① 在住外国人の状況

いつもご支援ご協力をいただきましてありがとうございます。

ふじみの国際交流センターを立ち上げたのが平成9年ですが、外国人事情が変化しています。日本人の出国者数は20年前と変わりませんが、外国人の入国者数は4.5倍に増えています。安倍総理はこれに加えて2020年までに、4000万人の外国人の入国を目指して、様々な施策を練っています。

FICEC設立当初は141万人だった在住外国人も平成28年末には1.6倍の230万人に増えました。しかし外国人を受け入れるための政府の対応は何も変わっていません。

在留資格別の人数は日本人配偶者が減って、留学・研修生が増え、技能・技能実習生が急増しています。また在住者230万人の約6割は、よほど悪いことをしなければビザを書き換えて、ずっと日本で暮らすことができる人達です。

年齢別に見ると21歳から50歳の若い人が大半を占めていることや、国際結婚によって生まれた1歳から20歳の日本国籍のダブルの子どもが多数存在しているのが解ります。また年間約3万組前後の国際結婚のうち約3分の2が離婚しています。

今、特に目立つのが、人道上の理由で難民認定書を得る前の「特定活動ビザ」を持った難民申請中の人が増えていることです。

次に問題なのが、仕事をするためのビザで来た親に連れてこられた、家族滞在ビザの外国籍の子どもの場合、ビザの関係で18歳を過ぎても週24時間きり働くことができないことです。

② グラフで見るFICECの活動と成果

いろいろな問題を抱えた外国ルーツの人が来たときに、外国人と日本人スタッフが協力して問題に取り組む、彼らが日本で円滑な社会生活が送れるようにFICECは15の事業をしています。近10年間のFICECの活動を数字で見た場合、生活相談件数と多言語情報誌の発行回数が減った以外は、概ね上向きに伸びていることがわかります。

FICECの活動は成果が目に見えるのがうれしいところです。来日当初からFICECのスタッフに世話になっていた中国の若者が、今は後輩の為に高校の説

明会に同行してくれています。心を閉ざした韓国の青年がFICECに来るたびに明るくなっていくのがわかります。日本語を勉強して仕事が見つかった人や、日本語ゼロだった人が、高校に無事合格できました。

私は30年前に日本語教室を始めて大勢の外国人と触れあいました。そこで外国人の素晴らしさや楽しさを実感することができました。皆さんにもこの喜びを共有してほしいと思っています。是非みんなで仕事を分け合って、喜びを体感してください。

③ 今 求められていること

埼玉県在住の外国人も14万人に増え、人口の2%になりました。そのため多くの機関から通訳の依頼が入っています。ところが通訳者に謝金を払う準備のできている機関はなく、お断りせざるを得ない現状です。FICECとして通訳できるスタッフを確保し、できれば有償化できるようにするにはどうしたらよいか早急に考える必要があります。

また、将来日本に何年滞在するかわからなくても、今いる人には今、本気で係わる。今を大切にすることが大切です。そして彼らが日本で働き、日本に税金が払える人になってもらえるように、できるだけことを伝え教えることが必要です。

また身内ではないけれど、信頼できる重要な他人であり続けたいと思います。そこで今年は特に、20年間の活動と実情を可視化して、社会的な投資の必要性を世に訴えていきたいと思っています。

一人が変われば地域が変わる、地域が変われば社会が変わることを信じ、みんなで協力し、楽しみながらボランティアを続けていきます。これからもご支援ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。以上



## ふじみの国際交流センターを応援しています

## 「陰ながら応援しています」 伊藤真弓さん

ふじみの国際交流センターの活動について、いつも敬服し、陰ながら応援しています。

センターを立ち上げる少し前だったのでしょうか、「ナナエさんに用事が出来てしまったので日本語教室のお手伝いを頼まれた」と、千寿子さんに誘われ、大井中央公民館でお手伝いをしたことがありました。始めは、日本語教室は、日本語が分からない外国籍の方々に日本語の学習を手助けすること、と思っていた。が、ナナエさんの、言葉だけでなく、日本で暮らしていくための生活や文化の違いを含め、様々な支援をしていることに、触れた時間でした。

日本語教室を長く続けてきたナナエさんは、色々な困難に直面している外国籍の人達の支えになろうと、自分で働いて貯えた資金をつぎ込んで、センターを立ち上げたのです。一緒に運営してきた皆さんとともに、生活相談や教育相談、仕事の相談、その人が自活して日本で生活していけるよう支援する、そんなセンターを作ってきたのですね。私も、市民から外国人の関係した相談があると、センターを大いに頼りにして問い合わせ、アドバイス、支援していただきました。

センターの活動も20年、日本語教室から相当な年月になるのですね。ちょうど送られていた総会資料を改めてじっくり読み、時々お会いした時のナナエさんの呟きが、解決するための色々な試みや行政への働きかけをして、事業化されてきたことが分かった気がしました。たくさん問題に突き当たり、その解決のために実施してきたことの積み重ねがあって、ここまで来たのではないかと思います。2016年度の事業報告を見ると、事業の幅も深さも目をみはるばかりです。

キーワードの「多文化が未来を拓く」、ミッションの「・・・豊かな多文化共生社会の実現」、ビジョンの多数の項目、多くの事業が展開され、たくさんの外国籍の人達を支援している活動。理事長とスタッフの皆さんの情熱とたゆまぬ努力が、様々な補助金獲得と受賞に結びついているのでしょうか。

これからもセンターを頼りにする外国籍の方々は増え続けるでしょう。ナナエ理事長の骨太の意欲、スタッフの皆さんの熱意で、活動は発展していくことと思います。皆さま、健康に気を付けて、ご活躍をお願いします。

## 見送りの3振りより空振りの3振り パートⅡ 石井ナナエ

○月○日 アジサイやハイビスカスの鉢の隣で、まるで買い忘れられたような「ナナ」と名札のついた鉢植えの木を買った。『花は咲きませんが1年中緑の葉が生い茂ります』という説明書にも共感を覚えた。しっかりと張った根、少々曲がっているけれど堅い幹、その先に好き勝手に伸びた枝とみどりの葉。父母や弟妹に守られ、子どもや孫からは大切にしてもらい、励まし引き立ててくれる友人を持ち、沢山の仲間を支えられて、好き放題している自分を見るようで衝動買いした。

満70歳が間近に迫ったせい、幼友達や親戚からの電話が頻繁にかかるようになったせい、子どもの頃からのことを思い起こす日が多くなった。いつも大勢の人に囲まれ、あらゆる場面で誰かに支えられてきた。美人に生まれなかったけれど、お金持ちになれなかったけれど「幸せな人生だな」としみじみと感じている。

○月○日 外国籍の子には就学の義務がない。そのため日本で暮らす外国籍の子どもの中には、日本語の読み書き、日本語で自分の気持ちを表現できない子がたくさんいる。もちろん法務大臣から入国を許

可された、在留資格のある子どもが、である。このまま大人になっても低賃金の単純労働にきりつけないだろうし、彼らの親がそうであるように、1度職を失うと再就職が難しい。

新年度を迎え今年は活動から見えてきた外国人事情を可視化し、社会に問題提起しようと考えている。彼らをこのまま放っておいて生活困窮に陥ったとき、どのくらい保護費が必要になるのか。先行投資をして彼らに十分な教育の機会を提供するにはどのくらいのお金がかかるのか、政府の役人に比較検討してもらいたい。

○月○日 日本財団子どもの貧困対策チーム著「子どもの貧困が日本を滅ぼす」を読み返している。大事な所、共感する提言、忘れてはいけない言葉などに線を引いたところ、傍線だらけで読みにくくなってしまったページが多い。この本には外国ルーツの子どもは取り上げられていないが、FICECのスタッフ皆が懸念している事を、分かり易く力強く解説してくれている。さすがに日本財団はすごい。FICECも皆で力を合わせて頑張ろう。

## 「出逢い」に感謝

チュア アリサ メイさん

出逢いは宝物。私は13歳の時に母と妹と共に日本に  
来日した。言語も文化もわからず何もかもが初めて  
だった。楽しい事も辛い事も沢山あった。ここでは苦  
労したこと、学校生活、人間関係、そして就職に至るこ  
とまで簡潔に経験を踏まえながら学んだことを述べ  
たいと思う。

苦労したことは沢山あった。まずは言語と異文化理  
解の壁。私は来日したころ日本語を全く話せなかつ  
た。聞き取ることも出来なかった。しかし、来日してか  
ら約2週間後に学校に入るため、母と妹と3人で公民  
館で行われる日本語の勉強に参加し、ひらがな、カタ  
カナをはじめ、挨拶、マナーなど多くの事を教えても  
らった。日本語の勉強は公民館だけに留まらず、中学  
生の頃に国語の時間に皆と離れて、大島先生が私に日  
本語の勉強を教えてくれた。日本語の他、学校からの  
プリントや他の授業内容の説明も教えてくれた。日本  
語の勉強は日本で暮らしている限り終わりは無い。  
FICECのようなセンターや公民館は私にとって大事な  
場所、掛け替えのない存在だ。日本語の勉強をはじめ、  
日本で暮らせるため異文化理解から生活に問題がな  
いように私達外国の方を助けてくれている場所であ  
る。これにより少しずつ会話することができ、友達も  
沢山作ることが出来た。私がこの時感じたことは、積  
極性や視野を広げることの大切さです。自ら積極的に  
クラスのみならず話しかけ、触れ合うことにより日本  
語だけでなく少しずつ文化を理解することが出来た。

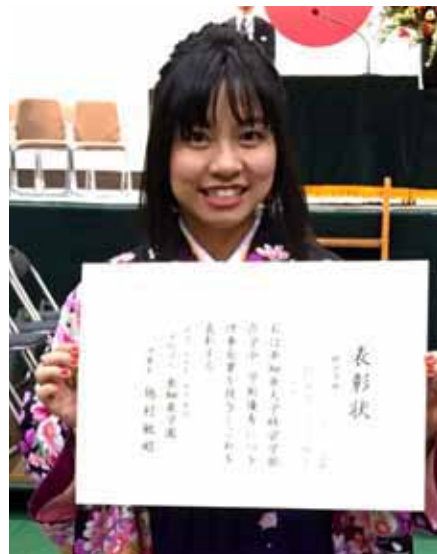
次に学校生活について。中学校・高校・大学を振り返  
ると辛かったこともあるが、楽しい思い出の方が沢山  
あった。自分は周りに恵まれたことを誇りに思う。家  
族をはじめ、FICECのみんな、大島先生、日本語の先生  
方、ビザの更新のために沢山お世話して下さった石井  
さん、学校の先生方、友人、関わっていたみんながいた  
から充実した学生生活を過ごすことが出来た。中学校  
の時に日本語の勉強、学校から来るプリントのお知らせ、  
生活のサポート、何もかもを大島先生、石井さんをは  
じめFICECでお世話になった。高校受験では学校の  
友人をはじめ、引っ越し先の公民館の先生方が説明会  
の同行や面接の練習のために毎日電話をくれていた。  
その後の大学受験は一緒に頑張れる仲間がいてくれ  
たから乗り越えることも出来た。

そして就職活動。就職活動では家族をはじめ、話を  
聞いてくれる友人、アドバイスをくれる学校のカウ

ンセラー、先  
輩、先生、イン  
ターンシップ  
先の先輩や社  
長、多くの人  
に支えられ  
た。ここで学  
んだことや感  
じたことは一  
人ではないこ  
と、また人  
との関わりは  
どれだけ大切

かを改めて感じた。そして、社会人になったからこそ言  
えることはみんなには学生生活を楽しんでほしい。  
掛け替えのない時間でもあるからだ。

そして、人間関係。人間関係でのトラブルは稀な  
ことではない。日本人同士であっても、起こり得る  
こと。ただ、私達外国人の場合は言語や文化の違い  
で価値観のずれや誤解によっていじめが発生する  
こともある。私は中学生の時にいじめを経験した  
ことがあった。それは中学2年生の夏に転校するこ  
とが決まり、新しい学校での人間関係があまりう  
まくいかなかった。やっと慣れ始めていた環境か  
らまた一からスタートすることになった。学校が  
違えば雰囲気も違います。はじめの約3、4か月は大  
変だった。外国人だからかじめられていた。部活  
の方も途中から参加したにも関わらず、レギュ  
ラーメンバーになってから一気に雰囲気が変わっ  
てやりづらくなり、結果部活を変更することにし  
た。日が経ち、少しずつ、自ら声をかけ、先生や周り  
の助けにより気づいたらまた普通の仲に戻ること  
が出来た。はじめは辛かったが、今思えば経験して  
良かった。なぜなら、いじめられる気持ちがわか  
り、人を励まし自分の行動や言葉により気をつけ  
ようと思うようになった。学んだことは相手を想  
い、心を広く持つことです。人と友達になる時は、  
まず心を開く必要がある。特に嫌な思いが起こ  
ったあとに人を許す時にもとても大切です。心を開  
かなければ、いやな気持ちしか残らない。始めは大  
変かもしれないが、心を広く持つことで相手をよ  
り理解出来、人との関わりが楽しくなると思います。



人はそれぞれで誤解や意見をぶつけ合うことでお互いをより理解することができ、関係もより強くなる。人間関係は生活する上で逃げられないもの。大切なのは相手を想い、価値観の違いを認め合うことで、初めていい人間関係が築けると思う。

最後に、就職活動は色んな意味で楽しかった。大変だったのは体力と金銭管理。それでも様々な企業を拝見できて色んな人に出会えたことが何よりも楽しかった。アドバイスとして言えるのは、楽し

んでありのままでいること。また大学を卒業し就職先が決まったことはゴールではない。その後何をやるかがゴールだと私は思う。私は人と関わることが好きのためサービス産業のホテルで就職することができた。毎日が新鮮で失敗することもたくさんあるが、同期や先輩、今まで出会えた人達がいると思うと頑張れる。そしてこれからも今まで出会えた人・出会うであろう人達への感謝の気持ちを忘れずに社会人生活を頑張っていく。

### 出版物紹介

## 「外国人生活相談入門書」を発送しました

日本で暮らす外国籍の人が日本の全人口の2%を超えたにも関わらず、今まではその実状や課題について関心を持つ人が少なく、市民としての存在も忘れられ、福祉の対象として考えられることもなかった。

しかし、子どもの貧困が問題視されるようになって初めて、外国ルーツの子どもについても関心を持ってくれる人が出てきた。

親の生き方に翻弄されて母国と日本を行き来させられている子。日本語だけの授業についていけない子。就職や進学でつまづいている子、外見や言葉が違うために仲間はずれにされる子、義父からの虐待に悩んでいる子など、幸せ薄い子どもをたくさん見てきた。また日本で生まれた日本国籍の子どもの中には、母親が外国人であることをひた隠しにしている子もいる。

どの子の例をとっても親の意識が子どもの人生を大きく変える事がわかる。子どもの誰もが夢を描き自分の道を進める社会を作らなければならない。そのためにはまず、様々な課題を抱えているおとなの問題を解決しなければならない。

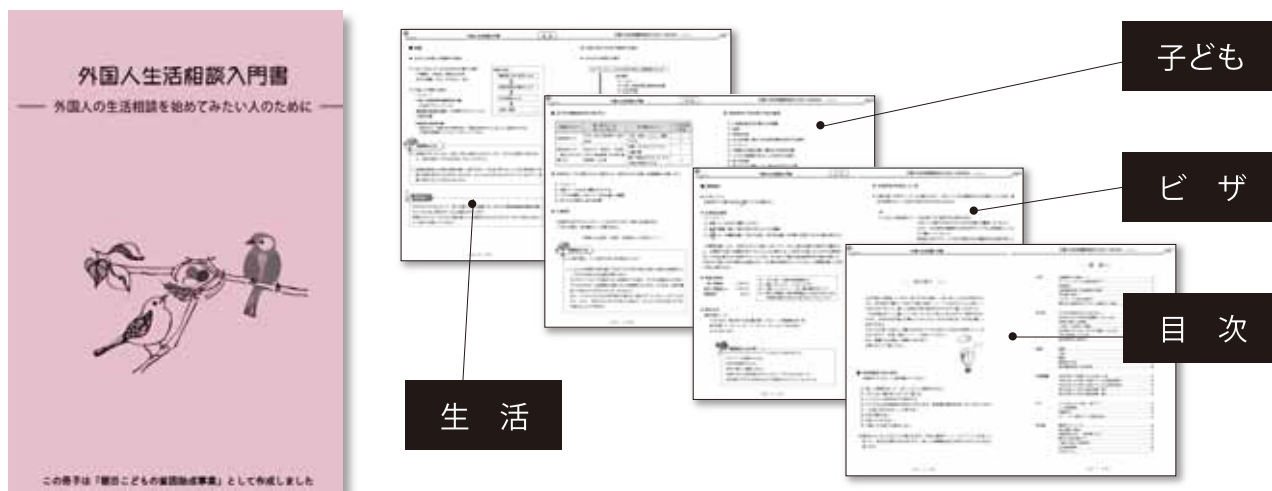
そこで、朝日新聞主催「朝日子どもの貧困助成事業」に「外国人の貧困家庭の子どもや親に対する支援事例集の作成と、養成講座の開催」の助成金申請をした。今までの体験事例をもとにした「ハウ・トゥ・外国人支援本」の作成である。

県内各地に外国人生活相談窓口ができて、問題が大きくならないうちに気軽に相談できるようになる事を願って作成した。難しい法律の文言や条例を分かり易い言葉に直し、挿絵やスタッフからのアドバイス、相談あれこれコーナーなどをふんだんに取り入れて、誰もが使えるようにした。

もっと詳しく調べたい時のために「基礎となる資料」を明示して、簡単に調べられるようになっている。

現在までに県内各市町村の外国人担当課を始め、関連機関、日本語教室など150カ所に5冊ずつ配布した。物珍しさもあって追加送付の希望もいただき、増刷を考えている。計画にはなかったうれしい現状である。

この冊子を使って、家族ではないけれど、在住外国人の事を本気で考える「重要な他者」としての日本人がどんどん増えることを願っている。





### スタッフ紹介

## 「色々な状況の人がいることを知り、 自分の世界が広がりました」 保坂佐紀恵

昨年、わが子のように可愛がっていた愛犬が亡くなり、その後間もなく介護していた姑も施設に入居し、ポカンと時間ができました。

私の中で、一つの時代が終わり、何かを始めたいという気持ちが芽生え、何か自分に出来る事はないかと調べていたら、ボランティアを募集しているというFICECのホームページを発見。思い切って出かけてみたら、石井さんが優しく迎えてくれました。

こうして私のボランティア活動が始まって、はや3か月。まだ3か月の新米です。

日本語教室のお手伝いと金曜日の午前中のお当番を担当させてもらっています。

日本語を教えるにあたり、いつも何気なく使っている日本語は、色々な表現方法があり、複雑で、初めての外国の人には学習しにくい言葉ではないかと感じました。

一つの言葉を説明するにも、わかりやすい表現を探すため、自分の錆び付いた脳みそをフル回転させて考えます。学習者と自分も一緒に勉強させてもらっている状況です。

今まで、外国の人と話す機会は、ほとんどありませんでしたが、教室では、毎回いろいろな国の人と話ができて楽しいです。まだ新米のため、ある程度日本語がわかる人を担当させてもらっているということもありますが…。

自分の国以外で生活するためには、まず言葉を学ばなければ、仕事をすることも、勉強することも難しい現状があることをここでひしひしと感じました。

もし、自分に置き換えたら、外国で初めての言葉を学びながら、生活していけるか疑問です。でも、FICECのような場所がそこにあったなら、それはとてもありがたいと、貴重な存在だと考えられます。

DV、シェルター、貧困家庭など今までニュースでしか聞かなかった現実がここにはあり、色々な状況の人がいることを知り、自分の世界も広がりました。

覚えることは沢山あり、お役に立てるにはまだまだですが、困っている外国の人たちを助けたいというFICECの皆さんのあたたかい気持ちを見習いたく、この活動を細く、長く続けていきたいと思って



## 「ハノイ 1000年の都」 グエン・ハ・チュン

7年前の2020年10月10日、ハノイは千年もの間ベトナムの首都であったことをお祝いしました。最初ハノイは「タンロン」(昇り龍の意)という名称でしたが、1831年からはハノイ(川の内側の意)に変わりました。都市が紅河という河に囲まれていることにちなんだものです。数ある特色の中で、一番なのはオールドクォーターと呼ばれる旧市街です。歴史を通してハノイはベトナム第一の都市であり商業の中心地であり続けていますが、オールドクォーターに行けば、1000年前の人たちがモノを売り買いしていた様子が想像できると思います。

オールドクォーターには36の通りがあり、それぞれの通りの名まえはその通りで売られていたものにちなんだ名まえが付いています。例えば「銀通り」では、全ての店は銀の装飾品、「鶏通り」では殆どの店は鶏、ア

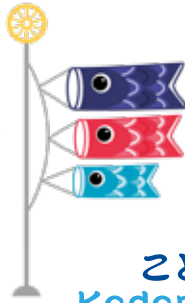
ヒル、卵、「衣服通り」では、衣料やファッション…といったように。オールドクォーターは、ハノイで最もにぎやかさとカラフルさと食に満ちた活気のある場所です。屋台の食べ物や庶民の文化を味わいにぜひ来てください！





## バザーを行いました

5月13日～15日にバザーを行いました。売上金は40,119円です。FICECの運営活動費として、活用させていただきます。ご協力をありがとうございました。写真は、バザーと14日に行われたミニパーティーの様子です。韓国海苔巻きキンパ、フィリピンのプートチーズ、タイの春雨サラダ、台湾煮込みそうめん、中華おこわ、クッキーなどが並びました。



## こどもの日 Kodomonohi

日本語教室で「こどもの日」のイベントをしました。『こいのぼり』の歌(うた)を、琴(こと)にあわせてうたいました。柏餅(かしわもち)もたべました。(4月27日)



## ふじみ野市生活ガイドブック発行

ふじみ野市生活ガイドブックが出来上がりました。英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、フィリピン語の五冊です。(5月18日)

## 「多文化共生事例集」でFICECが紹介されました

総務省が「多文化共生事例集」を発行しました。その中の『多言語・やさしい日本語による情報提供』のページにFICECが掲載されました。[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000476646.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000476646.pdf) (5月11日)



## 日本語学習支援ソフト制作

日本工業大学の先生と学生達が来ました。日本語学習支援ソフトを作るための打ち合わせをしました。漢字学習支援システム(スマホ・PC版)とゴミだしのルールを知るためのソフト(ゴミ出しのゲームもあります)を開発中です。出来上がりが楽しみです。(6月22日)

センターの活動をご支援ください  
**会員・賛助会員・寄付のご案内**

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

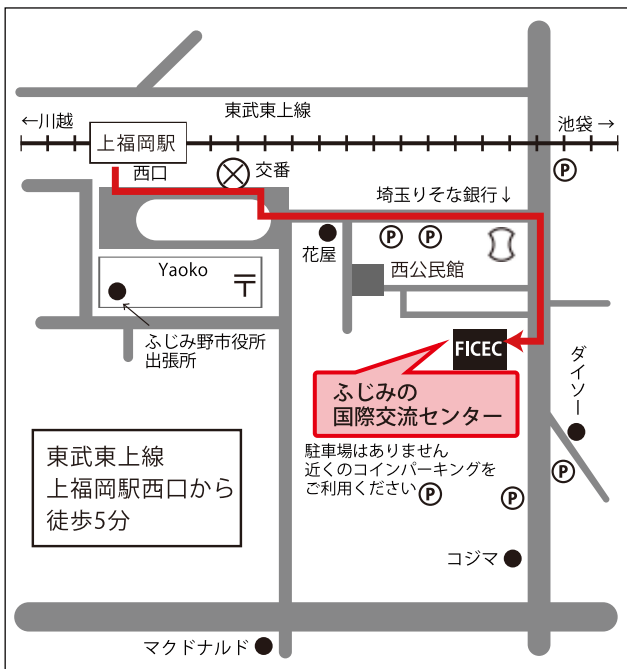
郵便振替口座: 00110-0-369511  
 口座名: ふじみの国際交流センター

**外国人生活相談 無料**

月曜日～金曜日 10:00～16:00  
 電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら  
 センターをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人  
**ふじみの国際交流センター**

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
 TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291  
 生活相談専用電話 049-269-6450

**ご寄付をいただいた方々**  
 ご支援ありがとうございます

●2016年4月1日～2017年6月10日(順不同・敬称略)

佐藤光江、樟山直美、加藤久美子、立麻肇子、安部幸枝、金澤国勝、佐藤義治、戸塚成子、駒形一夫、神田順子、邱垂蘭、吉永、鈴木譲二、尾浦邦彦、新井良司、栗嶋三千代、村山光代、金田康好、木村不二雄、マストラ、ニーランテオ、市川波穂、阿澄康子、小林暁美、湯澤直美、市川まなみ、松下敏恵、深見水季夫、本多香、竹内直江、田中つや子、中山明子、上島直美、矢澤美紀、寺村璧如、新井順子、森田信子、木村澄江、松村芳枝、石塚雄康、木場ひろみ、安銀柱、江科、太田原裕、岩田愛子、伊藤真弓、李李銘、坪田幹男、小熊一雄、粕谷光宏、中村禎作、野澤弘子、市川いずみ、金子佐記子、島田道子、新井洋子、佐藤裕悦、八重樫紀久枝、大室昭浩、仲野谷美恵、星野秋梅、小林久美、鄭玄淑、石井ナナエ、岩田仁、長谷川正江、小熊千寿子、穴沢エミリン、山畑博子、荒田光男、山崎友理、東入間地区遊技業防犯協力会、かめのり財団、一食推進委員会、朝日子どもの貧困助成事業、(株)吉岡

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センター		
サービス案内		
外国人	国際理解教育	3,000円+交通費+事務費
ゲスト派遣	外国料理教室	5,000円(材料費別途)
日本人	多文化共生講座	20,000円+交通費
講師派遣	ボランティア講座	(活動運営のためご協力ください)
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作	
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ
	その他文書	A4 3,000円/ページ
通訳	半日5,000円+交通費	
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日
○印刷機、コピー機が使えます		

**ボランティア活動に、ご参加ください**

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、生活相談・外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。